

田中一村 常設展

TANAKA ISSON Permanent Exhibition

奄美で日本画の新境地を拓いた田中一村の画業を、東京、千葉、奄美時代の作品群（約80点）を辿りながらご堪能ください。



不喰宇と蘇鐵 個人蔵 田中一村記念美術館寄託 ©2020Hiroshi Niiyama ※展示内容によってはご覧いただけない期間があります。

[観覧料] 大人 520 (410) 円 / 高大生 370 (290) 円 / 小中学生 260 (200) 円 ※ () 内は団体 (20 名様以上) の料金



田中一村記念美術館について

田中一村記念美術館は、2001年9月、鹿児島県奄美パーク内に日本画家田中一村のコレクションを常設展示する美術館として開館しました。奄美の海をイメージして作られた池の上に、高倉を模した展示室が建ち並ぶ特徴的な建築となっています。地元の素材をふんだんに使った館内には、常設展示室（第1～3展示室、特別展示室）の他に、田中一村について映像で学べるガイダンス室やライブラリーなどの無料エリア、奄美にちなんだ催しが開催される企画展示室、カフェやミュージアムショップがあります。



美術館入口



第1展示室（東京時代）



第2展示室（千葉時代）



第3展示室（千葉時代）



特別展示室（千葉・奄美時代）

田中一村について

田中一村は、彫刻師の父の指導のもと、幼少より画才を発揮し、十代から南画家として活躍しました。17歳で東京美術学校（現在の東京藝術大学）日本画科に入学しますが、わずか2か月で退学します。大学を退学した一村は、先達に学び、独学で制作を続け、南画から花鳥画や風景画を写実的に描く作風へと変わっていきます。昭和13（1938）年からは千葉市千葉寺に暮らし、農業と画業に励み、昭和22（1947）年には青龍社展に「白い花」が初入選します。しかし、その後は、なかなか中央画壇に認められることはなく、昭和33（1958）年12月、





50歳の一村は、新たな自分の表現を追い求め、単身、奄美大島へ渡りました。奄美での一村は、絵を描くために紬工場で染色工として働き、孤独と切り詰めた生活の中でも、画家としての信念を貫き、亜熱帯の動植物をモチーフに新たな日本画の世界を創造しました。一村は、奄美で描いた作品を発表するという思いは叶わず、昭和52（1977）年9月11日、69歳でその生涯を閉じました。昭和54（1979）年、有志によって一村の遺作展が開催されました。

田中一村常設展について



田中一村記念美術館では、所蔵作品の中から、田中一村の東京、千葉、奄美時代の作品を、いつでも約80点（年4回展示替え）お楽しみいただけます。

幼少期から青年期にかけて呉昌碩など中国の文人画家や南画家の影響を受けた東京時代。農業や手仕事をしながら多彩な筆法を取り込んで新しい日本画の表現を模索した千葉時代。亜熱帯の豊かな自然をモチーフに、斬新な構図や色彩で新たな日本画を生み出した奄美時代。各時代の代表作を含む作品群を巡りながら、田中一村の創作の軌跡と一村芸術の真髓をご堪能いただけます。

奄美／田中一村記念美術館へのアクセス方法

-  船船利用
鹿児島、沖縄より定期便
-  航空機利用
東京（羽田・成田）、大阪（伊丹・関空）、福岡
鹿児島、喜界島、徳之島、与論、沖縄より定期便

島内交通

-  名瀬港から奄美パーク・田中一村記念美術館
車（レンタカー）約40分
奄美空港から奄美パーク・田中一村記念美術館
車（レンタカー）約5分
-  名瀬港から奄美パーク・田中一村記念美術館
路線バスご利用の場合 約55分
※名瀬乗車（奄美空港・赤木名外金久行き）→奄美パーク下車
奄美空港から奄美パーク・田中一村記念美術館
路線バスご利用の場合 約5分
※奄美空港乗車（せとうち海の駅・こしゅく第1公園行き）→奄美パーク下車



田中一村記念美術館「冬の常設展」作品リスト

令和5年12月21日(木)～令和6年3月20日(水・祝)

■ 第1展示室

No.	作品名	読み	制作時期
1	白梅図	はくばいず	1916年
2	凌波仙士図	りょうはせんしず	1921年元旦
3	天下第一春	てんかだいいつしゅん	1920年冬
4	雪中南天図	せっちゅうなんてんず	1923年
5	蔬菜図	そさいず	1927年
6	楼閣山水図	ろうかくさんすいず	1925年
7	墨梅図	ぼくばいず	1925年夏
8	蘭竹図(衝立)	らんちくず ついたて	1929年2月
9	白梅図	はくばいず	1927年
10	水辺にめだかと枯蓮と落の臺	みずべにめだかとかれはすとふきのとう	1931年頃
11	木(扁額)	き へんがく	1927年1月
12	花(扁額)	はな へんがく	1928年
13	梅花図	ばいかず	1927年

■ 第2展示室

No.	作品名	読み	制作時期
14	徳利と猪口(一村による絵付)	とっくりとちよこ	1955年
15	根付け	ねつけ	
16	帯留め	おびどめ	
17	木魚	もくぎよ	1935年
18	高麗鶯	こうらいうぐいす	
19	高麗鶯	こうらいうぐいす	
20	高麗鶯	こうらいうぐいす	
21	ふくろう	ふくろう	
22	矮鶏の親子	ちやぼのおやこ	
23	軍鶏図	しゃもず	1945年頃
24	椿に鶉	つばきにひよどり	
25	兜図(下絵)	かぶとず したえ	
26	枯木にきつつき	かれきにきつつき	
27	《枯木にキツツキ》下絵残欠	かれきにきつつき したえざんけつ	
28	入日の浮島	いりひのうきしま	
29	千葉寺 雪	ちばでら ゆき	
30	千葉寺風景	ちばでらふうけい	1955年
31	黒牛	くろうし	
32	軍鶏図(下絵)	しゃもず したえ	
33	軍鶏図(下絵)	しゃもず したえ	
34	軍鶏図(下絵)(正面)	しゃもず したえ しょうめん	
35	軍鶏図(下絵)(右向き)	しゃもず したえ みぎむき	
36	浅春譜	せんしゅんぷ	

■ 第3展示室

No.	作品名	読み	制作時期
37	棕櫚	しゅろ	
38	南天図	なんてんず	
39	白梅図	はくばいず	
40	白い花	しろいはな	1947年9月
41	花と軍鶏	はなとしゃも	1953年
42	草花図天井画	くさばなずてんじょうが	1950年
43	放牧	ほうぼく	

No.	作品名	読み	制作時期
44	浜木綿と緋桐	はまゆうとひぎり	1955年
45	由布嶽朝霧	ゆふだけあさもや	1955年
46	足摺狂濤	あしずりきょうとう	1955年
47	室戸岬	むろとみさき	1955年
48	山村六月～北日向にて～	さんそんろくがつ きたひゆうがにて	1955年

■ 特別展示室

No.	作品名	読み	制作時期
49	与論島初冬	よろんとうしよとう	
50	寶島の奇巖	たからじまのきがん	
51	紅梅丹頂図	こうばいたんちようず	1960年頃
52	白梅に高麗鶯	はくばいこうらいうぐいす	1960年頃
53	「白梅に高麗鶯」下図	はくばいこうらいうぐいす したず	
54	赤髭	あかひげ	1959年
55	和光園芳名録	わこうえんほうめいろく	1958年12月17日
56	大熊風景	だいくまふうけい	1969年1月
57	紅梅図	こうばいず	1960年
58	白梅図	はくばいず	1958年
59	パパイヤとゴムの木	ぱぱいやとごむのき	1960年
60	アダンと小舟	あだんとこぶね	1960年
61	奄美の海に蘇鐵とアダン	あまみのうみにそてつとあだん	1960年1月
62	枇榔樹の森に崑崙花	びろうじゅのもりにこんろんか	
63	奄美の郷に棲紅蝶	あまみのさとにつまべにちよう	
64	大赤啄木鳥と瑠璃懸巢	おおあかげらとるりかけす	
65	草花に蝶と蛾	くさばなにちようとが	
66	構想画(草花に蝶と蛾)	こうそうが「くさばなにちようとが」	
67	枇榔樹の森に浅葱斑蝶	びろうじゅのもりにあさぎまだら	
68	不喰芋と蘇鐵	くわずいもとそてつ	1973年頃
69	白花と瑠璃懸巢(未完)	しろばなとりりかけす みかん	1975年頃
70	クロトンと熱帯魚	くろとんとねつたいぎよ	
71	ポインセチアとツマベニチョウ	ぼいんせちあつつまべにちよう	1976年
72	ブチスズキペラとブダイペラ	ぶちすずきペラとぶだいペラ	
73	アヤマエビスとヤマブキハタ	あやめえびすとやまぶきはた	
74	モンツキハギとメガネクロハギ	もんつきはぎとメガネくろはぎ	1975年
75	ミヤコテングとチョウチョウウオ	みやこてんぐとちようちよううお	1975年

No.	資料	読み
76	一村の印	いん
77	一村の硯	すずり
78	一村の筆	ふで
79	漢籍國字解全書 上・下(一村所有)	かんせきこくじげんぜんしよ じようげ
80	ピカソ画集(一村所有)	ぴかそがしゅう
81	和光園季刊誌	わこうえんきかんし
82	和光園芳名録	わこうえんほうめいろく

田中一村 (1908-1977)



明治41(1908)年、栃木県に生まれる。幼少の頃から画才を発揮し、若くして南画家として知られる。18歳、東京美術学校に入学するが2ヶ月で中退。以後、中央画壇と一線を画し、50歳を過ぎて独り奄美へ移住。紬工場で染色工として働きながら絵を描き続けた。東京、千葉を経て、この奄美の地で亜熱帯の鳥や自然を描き日本画の新境地を開いたが、作品を発表することなく69歳の生涯を終えた。

田中一村 年譜

- | | |
|-----------------|--|
| 明治 41年 1908年 | 7月22日、栃木に生まれる。父・彌吉(彫刻家、号「稲村」)、母・セイ |
| 大正 3年 1914年 6歳 | 東京に転居する。 |
| 4年 1915年 7歳 | 父から号「米邨」を与えられる。 |
| 14年 1925年 17歳 | 『全国美術家名鑑』の「超然並びに余技」の項に田中米邨の名が掲載される。 |
| 15年 1926年 18歳 | 東京美術学校日本画科に入学するが、2ヶ月で退学する。
12月、「田中米邨画伯賛奨会」が開かれる。 |
| 昭和 2年 1927年 19歳 | 弟・芳雄逝去。
20歳で弟・実と母を、27歳で父と弟・明を失う。 |
| 6年 1931年 23歳 | 本道と信ずる絵《水辺にめだか枯蓮と落の臺》を描くが、賛同を得られなかった。 |
| 13年 1938年 30歳 | 親戚を頼って千葉市千葉寺に姉、妹、祖母と転居する。 |
| 22年 1947年 39歳 | 青龍展に《白い花》を出品し、入選。画号を「米邨」から「柳一村」に改号する。 |
| 23年 1948年 40歳 | 青龍展に《秋晴》を出品し落選する。参考作品《波》の入選を辞退する。
画号を「柳一村」から「田中一村」に改号する。 |
| 30年 1955年 47歳 | 3月から5月、石川県「やわらぎの郷」の聖徳太子殿天井画制作のために滞在する。
6月、九州、四国、紀州を旅する。 |
| 33年 1958年 50歳 | 12月13日、奄美大島名瀬市に到着する。与論島、沖永良部島にも足を伸ばす。 |
| 34年 1959年 51歳 | 国立療養所奄美和光園の官舎に住む。 |
| 35年 1960年 52歳 | 一時千葉に帰り襖絵を制作する。 |
| 36年 1961年 53歳 | 4月、奄美に戻り、12月、有屋の一戸建てを借りて住む。 |
| 37年 1962年 54歳 | 名瀬市大熊の紬工場で染色工として働き始める。
画業の計画「5年働いて3年描き、2年働いて個展の費用をつくり、千葉で個展を開く。」を立てる。 |
| 40年 1965年 57歳 | 姉・喜美子逝去。 |
| 42年 1967年 59歳 | 5年働いた紬工場を辞め、3年間絵画制作に専念する。 |
| 45年 1970年 62歳 | 計画通り、再び紬工場で働く。しかし、2年後に個展は開かず制作に取り組む。 |
| 51年 1976年 68歳 | 6月下旬、畑仕事中に脳梗塞(もしくは脳溢血)で倒れ、1週間入院する。 |
| 52年 1977年 69歳 | 9月1日、和光園近くの一軒家に移る。「御殿」のようだと伝える。
9月11日、夕食の準備中に心不全で倒れ、69年の生涯を閉じる。 |
| 54年 1979年 | 名瀬市中央公民館にて3日間「田中一村画伯遺作展」が開催される。 |
| 59年 1984年 | NHK教育テレビ「日曜美術館」で「黒潮の画譜～異端の画家・田中一村」が放映される。 |
| 平成 13年 2001年 | 9月30日田中一村記念美術館開館 |

田中一村 常設展 鑑賞マップ



本日はようこそ田中一村記念美術館へお越しくださいました。

当館では、一年を通して、田中一村の東京、千葉、奄美時代の作品約80点をご覧いただけます（年4回展示替え）。奄美で日本画の新境地を拓いた田中一村の画業をご堪能ください。

④ 特別展示室

奄美時代（1958～1977）

50歳で、絵描きとして生涯最後を飾る絵を描くために、当時日本の最南端であった奄美に単身移り住みます。一村は、染色工として働いては、絵を描くという生活を繰り返しました。色紙サイズの作品から大型の本画まで、一村が19年間に生み出した作品群をお楽しみください。描かれている動植物、時間帯、視点等に注目して味わってみてください。

現代美術家
重村三雄作品

① 第1展示室

東京時代（1914～1938）

彫刻家の父の影響もあり、幼少から画才を発揮します。若くから南画家として活躍します。南画は、柔らかい描線を用いて描かれます。線の動きや墨の濃淡、彩色など、一村が心でとらえた世界を味わってください。後半は写実的な表現が増えていきます。

一村の杜（無料ゾーン）

一村の絵の世界に登場する亜熱帯の植物を植栽してあります。



②③④ 第3展示室・特別展示室

千葉時代（1938～1958）

30歳で一村は、親戚を頼って千葉に移り住みます。農業などをこなしながら画題や表現も様々なものに取り組みました。襖絵や屏風などの大型の作品や団体展にも挑戦しました。観察を基にした表現や装飾的な表現などを味わってみてください。九州・四国・紀州を旅したときの作品も見どころです。落款にもご注目ください。（*郵・一村）

ライブラリー（無料ゾーン）

日曜美術館が鑑賞できます。

企画展示室（無料ゾーン）

様々な催しを開催しています。

当美術館の常設展の楽しみ方

時間のある方は、ガイダンス室で上映される「孤高の画家 田中一村」をご視聴いただいてから、一村の作品をご鑑賞ください。一村について概要を理解してから作品を鑑賞することで、作品の見方・感じ方も変わってきますよ。

毎時15分・45分スタート
上映時間：約20分

作品の見方・感じ方のポイント

色・形（描かれているモノをなど）
・材料（絵の具、描かれている素材）
の視点を持って鑑賞してみてください。

キャプションを見ると何に描かれているか分かりますよ。

紙本着色 紙に描かれています。

絹本着色・絵絹に描かれています。



田中一村 記念美術館
TANAKA ISSON MUSEUM